

浦安アートプロジェクト「浦安藝大」

浦安藝大2023

1. 各プロジェクト概要	01
2. プログラム実施報告	17
3. 浦安藝大2023 企画・制作チーム	19

「ミチニワと観測所」

榎村芙実+榎村研究室

このプロジェクトに
関する記事を読む ▶▶▶



榎村芙実+榎村研究室では、浦安の課題としてあげられた「水害と防災」を起点に、浦安市の地形や水、公園などをキーワードに身体をつかった観測を進めてきました。その過程で注目したのが、開発以前や開発途中の市内に存在していた「ミチニワ(道庭)」です。時代の流れにより、現在ではほとんど見ることはなくなった「ミニチワ」は、誰かと誰かの移住空間の間にあり、周囲との関係性を繋いでいた場所でもありました。「ミチニワ」のような場所は今どこにあるのか、そこで辿り着いたのが多様な役割をもつ公園でした。

まちなか展示「ミチニワと観測所」

会場 | 明海の丘公園、旧大塚家住宅

展示「ミチニワと観測所」では、メンバーが実施した観測を基に、日常的に起こっている自然現象を視覚化し、市民が身体で感じることができる「観測所」を明海の丘公園に制作しました。「観測所」は、市民のみなさんと「水害」や「防災」などの課題やこの地域ならではの環境への新しい視点を学びあい、自然をとおして交流できる「ミチニワ」のようなコミュニティの場としても機能することを目指しました。

旧大塚家住宅では、これまで榎村芙実+榎村研究室が行ってきた観測や制作してきた資料、議論し合ってきたこれまでのアーカイブを展示しました。

〈活動中に行ったワークショップ〉

身の回りの環境に目を向け、少し未来の気象を予測することで防災意識を高めるため、「ヤネ」をテーマに3回のワークショップを行いました。

「ヤネをさがそう」

2023年10月1日(日) 場所 | 日の出公民館、明海の丘公園

明海の丘公園を舞台に、風向きなどを観測しながら自分たちだけの「ヤネ」をつくるワークショップ。自分の居場所を意識しながら公園にヤネをつくることで、自然現象と自分が住む場所の関係性を意識することに繋がりました。



「ヤネをうかそう」

2023年10月19日(木) 場所 | 明海の丘公園

明海の丘公園に立ち上がった観測所の完成のため、みんなで「ヤネ」取り付けのワークショップ。まちなか展示期間に、身近な自然現象を観測しながら、公園にきた人たちの新たな交流を生むための場をみんなでつくり上げました。



「ヤネと空のあいだ」

2023年11月5日(日) 場所 | 日の出公民館

気象予報士として活躍する齊田季実治さんをゲストに、天気と防災(水害)の関係について考えるワークショップ。ヤネと空の間で起こっていること、雲や風について身体を使いながら学ぶことで、日常的に地域のことを思考するきっかけづくりになりました。



[プロフィール]

榎村芙実

横浜市生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。2011年 TERRAIN architectsを共同設立、ウガンダを中心にアフリカと日本の建築プロジェクトに携わる。現在、東京藝術大学美術学部建築科准教授。榎村研究室では、2019年よりアフリカ/ウガンダの教育機関、実務者とコラボレーションした活動を展開している。

榎村研究室

大学院1年生である阿部朔太、長谷果奈、山田 楽々の3名が浦安藝大で活動。卒業生である建築家の蓮溪芳仁がプロジェクトアシスタントとして参加。

関わった人

齊田季実治

関わった担当課・施設

危機管理課、郷土博物館、みどり公園課



「拡張するファッション演習」

西尾美也+林央子



浦安の課題としてあげられた「高齢化と孤立」とファッション(よそおい)を繋ぐプロジェクト「拡張するファッション演習」がスタートしました。西尾美也(美術家/東京藝術大学准教授)と林央子(著述家/編集者/研究者)に加え、ファッション研究者の安齋詩歩子をリサーチャーに迎えました。表現すること、自分であること、生きることそのものでもあるファッション(よそおい)から、浦安で生活する高齢者を含めた多くの世代へのアプローチを続けていきます。本年度は、ファッションを「創造的な対話」と考える西尾美也と林央子の取り組みに共鳴した専門家たちが外部講師として参加し、多様なレクチャーやワークショップをおこないました。

まちなか展示「浦安するファッション」

西尾美也+L PACK.

会場 | CUT CLUB Top one、accorto、ばんば美容、UPPER CUT、SILVIA

展示「浦安するファッション」は、「拡張するファッション演習」の一環として西尾美也とL PACK.(エルパック)のコラボレーション企画として実施されました。

中町地域のまちに根付いた理髪店と美容院5店舗にご協力いただき、市民の装いにまつわる服やもの、それらにまつわるエピソードが展示されました。高齢者を含む、たくさんの世代が利用する場である理髪店と美容院で、みなさんと一緒にそれぞれの生活に寄り添うファッションについて考える場がひらかれました。

〈活動中に行ったレクチャー/ワークショップ〉

「高齢化と孤立」の課題を軸に、対話としてのファッションという視点からレクチャーやワークショップを行いました。

レクチャー「拡張するファッション演習」

2023年8月26日(土) 場所 | 文化会館

ファッションに関する市民参加型プロジェクトについての多様な事例や、さまざまなアーティストの活動を紹介するレクチャー。人と人の対話を促すファッションという観点から、この課題についての思考を深めました。



「あそびを装う」

2023年10月20日(金) 場所 | 市民プラザ Wave101

デザイン、アート、ファッションなどの領域を横断的に活動する2人組ユニットBIOTOPE(ピオトープ)をゲストに、ファッションをあそぶ可能性について考えるレクチャー&ワークショップ。様々な種類の布やカラフルなビーズなどを使い、オリジナルバックづくりを行いました。



「循環する社会へ」

2023年10月27日(金) 場所 | 市民プラザ Wave101

服と人、環境などの関係から、ファッションの未来を予感させる店舗を営む方(ゲスト:矢野悦子さん、北原一輝さん、石井大彰さん)をゲストに迎え、衣服とファッションをつくる人・売る人・着る人の循環をとともに考えるトークイベント。ファッションが、生きることの多くの場面に関連していることを、改めて学ぶ機会となりました。



「魂のもうひとつの皮膚」

2023年11月3日(金・祝) 場所 | 市民プラザ Wave101

限界集落を拠点に、農作業にこそしむ村人を理想のモデルとするデザイナー居相大輝さんをゲストに迎えたレクチャー&試着撮影会。世代や立場の壁を越え、iai/居相の服を試着しながら交流を深めました。65歳以上の市民モデルも募集し、新浦安駅前で撮影会も行いました。



[プロフィール]

西尾美也

奈良県生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。博士(美術)。文化庁 新進芸術家海外研修員、奈良県立大学地域創造学部准教授などを経て、現在、東京藝術大学美術学部先端芸術表現科准教授。 装いの行為とコミュニケーションの関係性に着目したプロジェクトを国内外で展開。ファッションブランド「NISHINARI YOSHIO」を手がける。

林央子

1988年に資生堂に入社し『花椿』編集室に所属。パリコレ取材を体験した後、2001年に離職し個人雑誌『here and there』を創刊。2011年に発表した書籍『拡張するファッション』が学芸員の目にとまり、美術館で展覧会「拡張するファッション」(2014年)を開催。

関わった人・店舗

安齋詩歩子、L PACK.、BIOTOPE、矢野悦子、北原一輝、石井大彰、iai/居相、CUT CLUB Top one、accorto、ばんば美容、UPPER CUT、SILVIA

関わった担当課・施設

高齢者包括支援課、高齢者福祉課、老人福祉センター



「風の子」

五十嵐靖晃

このプロジェクトに
関する記事を読む ▶▶▶



浦安市の隣に位置する、千葉県市川市で生まれ育った五十嵐靖晃を迎え、「埋立地」をキーワードにしたプロジェクトが実施されました。これまで20年以上にわたり、国内外の壮大な自然の中で作品をつくり続けてきた五十嵐は、多くの経験をした今、改めて埋立地とそこで生きる人たちについて考察します。人工的に開発された地域だからこそ、新しい地域だからこそ生まれる、住む人たちの思いや願いにスポットをあて、市民のみなさんとともに、浦安の、埋立地の神様について考えを広げました。

まちなか展示「風の子」

会場 | 総合公園

開発を経て多くの変化を遂げてきた浦安においても、昔から変わらず存在する“風”を可視化した660個の「風の子」たちが空を舞いました。風の子の奥には、雄大な東京湾が広がり、自然との境を見渡すことができます。小さな吹き流しである「風の子」は、市内各地域で子どもたちの手によってつくられ、それぞれの場所で子どもたちと日常を過ごし、本展に合わせて市内各地域から集められました。子ども(風の子)たちと一緒に過ごすことで、生活圏が異なる市内の境界を繋ぎ、土地や人との関係に新たに生じた流れを未来につなぐ願いも込められています。

〈活動中に行ったワークショップ〉

時代を超えても変わることなく浦安に吹く“風”を可視化した「風の子(小さな吹き流し)」づくりのワークショップを、市内の子どもたちに向けて、17回行いました。

「風の子をつくろう」

- 2023年8月7日(月) 場所 | 当代島公民館
- 8月22日(火) 場所 | 市民プラザ Wave101
- 8月23日(水) 場所 | 市民プラザ Wave101
- 8月29日(火) 場所 | 明海南小学校地区児童育成クラブ
- 9月2日(土) 場所 | 高洲公民館
- 9月3日(日) 場所 | 高洲公民館
- 9月13日(日) 場所 | 高洲北小学校
- 10月11日(水) 場所 | 美浜北小学校地区児童育成クラブ



小学生に向けた「風の子」をつくるワークショップを浦安市内の元町、中町、新町エリアそれぞれの場所で開催。開発で変化をとげた浦安に吹く風をとおして、浦安市民の思いや願いについて考え、未来へ繋いでいきました。

「風の子の日」

2023年10月22日(日) 場所 | 総合公園

ワークショップで子どもたちの手によってつくられ、子どもたちの住む場所で日常を過ごした「風の子」たち。その「風の子」が総合公園の海沿いに集まり、子どもたちと大人たちの手によって展示される日。現地では、風の子を持って集まった子どもたちもスタッフに加わり、来場者のための「風の子」づくり体験も行われました。



[プロフィール]

五十嵐靖晃

千葉県生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。人々との協働を通じて、その土地の暮らしと自然とを美しく接続させ、景色をつくり変えるような表現活動を各地で展開。アートとは自然と人間の関わり方の術であり、この時代、多様な人々をつなげるものとしてあると考えている。

関わった人・学校

馬場恒夫、須田哲史、西川汐、東小学校、高洲北小学校、明海南小学校地区児童育成クラブ、美浜北小学校地区児童育成クラブ

関わった担当課・施設

青少年課、道路整備課、みどり公園課、市内小学校

素材提供 | 第一織物株式会社

協力 | 日軽エンジニアリング株式会社



「浦浦 (Ura Ura)」

KITA

インドネシア語で“わたしたち”を意味する「KITA」を手がかりに、誰が「わたしたち」であるか?とさまざまな境界に対し疑問を投げかける、アート・コレクティブKITAのプロジェクトが実施されました。「わたしたち」は、境界をなくす言葉でも、境界を引く言葉でもあります。メンバーたちは、浦安に存在する境界をリサーチし「浦」の存在に着目しました。浦は、入江や海岸、またその付近の共同体を指す言葉です。埋め立てによって開発されてきた市内には、かつて「浦」だった場所があちこちに存在しています。そのようなこの街を「いたるところ(浦々)にある境界(浦)を超えながら生きる街」=「浦浦」と捉えました。

まちなか展示「浦浦 (Ura Ura)」

KITA

会場 | 浦安公園

浦安市の過去と現在、海と陸の境界を横断できるような場が、かつて「浦」であった浦安公園に立ち上がりました。いまでも残る浦安の三番瀬の音(海の音)が聞こえる栈橋を中心に、あったかもしれない風景を創造するオブジェが並びます。周りを囲む鳥たちは、人間の引いた境界を飛び越えて生き、浦安の三番瀬にも飛来する渡り鳥をイメージし、浦安市民のみなさんの手で彩られたものです。かつての風景や記憶に思いを馳せ、時代や土地のへだたりを超えた浦安の「わたしたち」を考えるための装置は、浦安のみなさんの新しい関係性のはじまりとなる不思議な空間となりました。

〈活動中に行ったワークショップ〉

「わたしたち」から浦安について考え、言語を超えた「あそび」と「渡り鳥」をキーワードに、境界をときほぐすようなワークショップを行いました。

「わたしたち(KITA)の実験室」

2023年8月11日(金・祝) 場所 | 文化会館

日本語、英語、インドネシア語が飛び交う空間で、ジェスチャーや絵などの言葉だけではないコミュニケーションをとりながら、「あたらしいあそび」をつくるワークショップ。浦安市の各エリア、日本とインドネシア、世代や立場といった様々な境界を越えて、あそびが創造されました。



「UraUra実験室-浦をあそぼう-」

2023年10月21日(土) 場所 | 三番瀬環境観察館

地球規模で境界を飛び越えて生活する渡り鳥は、浦安の三番瀬にも毎年降り立ちます。三番瀬環境観察館を舞台に、浦安にやってくる渡り鳥や三番瀬の生き物を学び、オリジナルの渡り鳥のオブジェをつくりました。ここで作られた渡り鳥は、浦安公園の「浦浦」にて展示されました。



このプロジェクトに関する記事を読む ▶▶▶



[プロフィール]

KITA

日本とインドネシアを拠点とするメンバーによって、2022年に結成された拡張するアート・コレクティブ。インドネシア語で、私たちが意味する「KITA」。さまざまな形態の作品をとおして、境界をつくる言葉でもあり、境界をなくす言葉でもある「私たち」を探る。メンバーは、アディティヤ・プトラ・ヌルファイジ、アナスタシア・ユアニタ、北澤潤、シティ・サラ・ライハナ、津田翔平、能作淳平、ミヤタユキ、ムニフ・ラフィ・ズディ。本プロジェクトのサポートメンバーに、渥美雅史、櫻井莉菜、中山源太、三橋れいな、イマ・ヒクマトゥル・ハサナ、屋宜初音。

関わった人・団体

浦安水辺の会、浦安三番瀬を大切に作る会、浦安細川流投網保存会

関わった担当課・施設

環境保全課、郷土博物館、三番瀬環境観察館、みどり公園課



URAYASU × ARGENTINE × TURN

マックス・ゴメス・カンレ

このプロジェクトに
関する記事を読む ▶▶▶



一人ひとりの習慣や記憶、地域の歴史とも結びついた「食」をテーマに、国内外からの視点や経験を活かして、コミュニティの可能性を広げることを目的としたプロジェクト。本プロジェクトは、東京藝術大学のTURNプロジェクトとアルゼンチンを拠点とするBIENALSUR(ビエンナーレスール)との連携により実施。

アルゼンチン人アーティストのマックス・ゴメス・カンレが浦安に滞在し、「食」をテーマにしたフィールドワークやワークショップ等を、市民公募によって選出された平田彩とともに行いました。その後平田彩がアルゼンチンに渡航し、マックス・ゴメス・カンレとともに活動しました。浦安とアルゼンチンでの活動によって、世代・背景・言語等が異なる多様な人々が「食」を通じて体験を共有し、コミュニティを醸成するきっかけづくりができました。

まちなか展示「海辺を散歩しながら／見つめながら」

会場 | 旧宇田川家住宅

商家としてかつて栄えた旧宇田川家住宅では、マックス・ゴメス・カンレが浦安に滞在中で見聞したり、感じたことを表現したドローイングや日誌等を展示するとともに、ワークショップで参加者と創作した地図も紹介しました。また本展の後、浦安での体験をアルゼンチンの活動に繋げ、写真や映像を現地の展覧会で紹介しました。

〈活動中に行ったワークショップ〉

アルゼンチンと浦安の文化を学び合い、時に混ぜ合わせながら、人と人との繋がりを築くきっかけをつくるための「食文化」を楽しむワークショップを行いました。

「材料/素材のこと」

2023年10月14日(土) 場所 | 中央公民館

自分が知っているまちを、参加者全員で大きな地図をつくって共有し、それぞれの浦安を、ピザで表現するワークショップ。一人ひとりの想いが詰まった浦安のピザをシェアして、浦安について語りあい、新しい関係性を築きました。



「つくるプロセスのこと」

2023年10月22日(日) 場所 | 美浜公民館

かつて生産が盛んで、現在も浦安の名産品のひとつである海苔と、浦安の食を代表するあさりを使って、浦安の地図を海苔巻きで表現するワークショップ。海苔巻きをつくる前に、参加者一人ひとりが浦安の地図を描き、その後で全員で木炭を使って大きな地図づくりを行いました。



※2023年11月21日から12月2日には、アルゼンチンにてマックス・ゴメス・カンレと平田彩が浦安の活動を反映したリサーチやワークショップ、展示などを行いました。また帰国後の2024年1月27日と2月17日に、平田彩が本プログラムの活動報告とワークショップを浦安市で行いました。

[プロフィール] マックス・ゴメス・カンレ

ブエノスアイレス生まれ。大工、舞台設営、修復、料理、工芸、額装、作詞、ビデオ制作などの職に転々とする。90年代にプリリディアノ・プエイレド国立美術学校で絵画を学び、あらゆるジャンルの絵画の模写を行った。2022年にKonexプラチナ賞(絵画部門)を受賞するなど数々のコンペで入賞。ギャラリー、美術館で多くの個展を行う。

平田彩

岡山県出身。学生時代は比較文化学を専攻。アメリカ留学中は人間発達学を学ぶ。その後留学時代の友人の影響でドイツ、イタリアの和食レストランで調理師として勤務。帰国後は物流・貿易などの業務を経て、現在はフリーランスとしてソーシングプロジェクト、英語コーチングを行う。

関わった人・会社など

東京藝術大学TURN事業、BIENALSUR

関わった担当課・施設

郷土博物館、千鳥学校給食センター



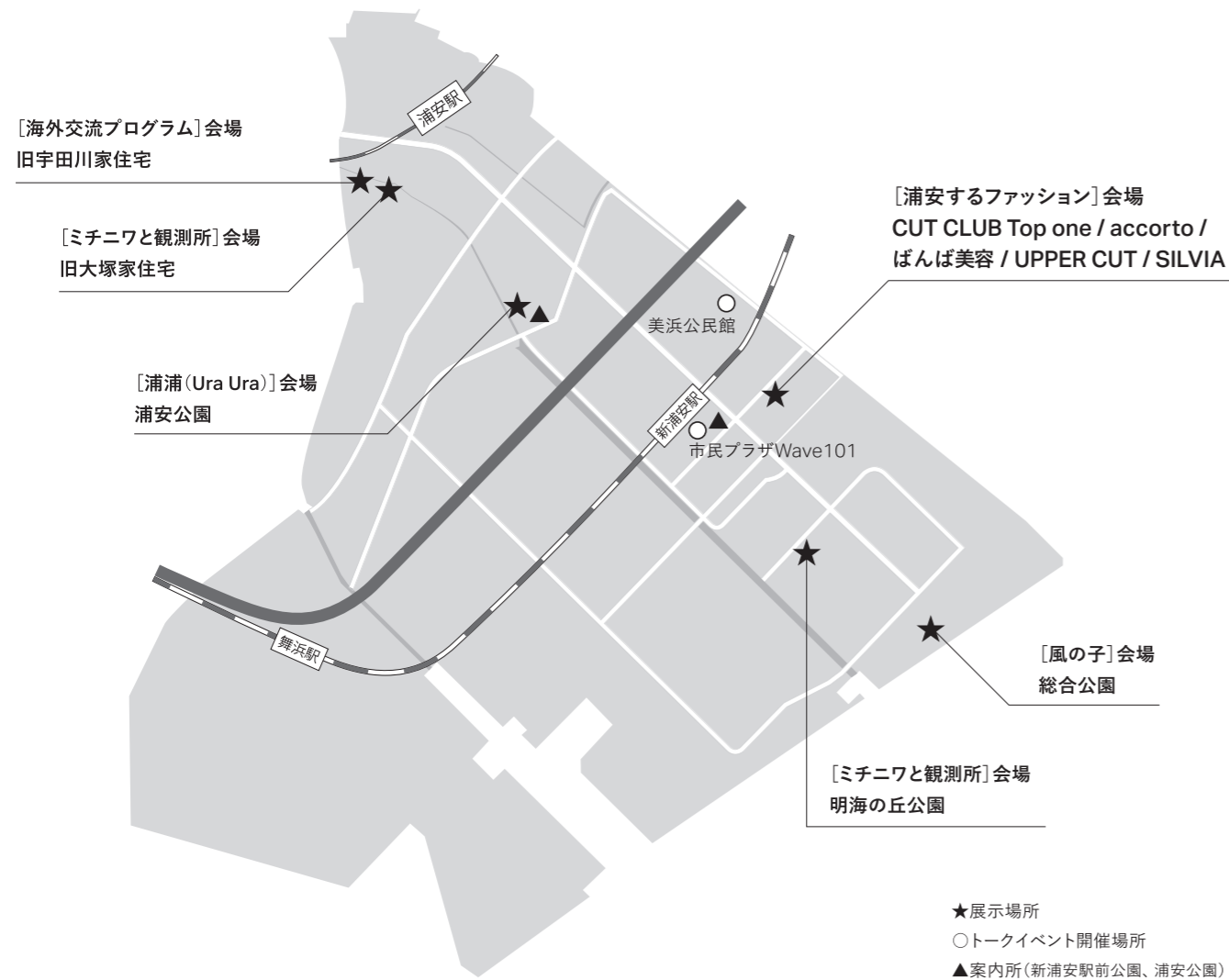
credits: Guido Piotrkowski - Gentleza BIENALSUR



まちなか展示・トークイベント

本年度に実施した5つのプロジェクト(「ミニワと観測所」榎村美実+榎村研究室、「拡張するファッション演習」西尾美也+林央子、「風の子」五十嵐靖晃、「浦浦(Ura Ura)」KITA、海外交流プログラム「URAYASU×ARGENTINE×TURN」マックス・ゴメス・カンレ)の成果発表の機会として、浦安市の各エリアで、まちなか展示を実施しました。また、期間中には、トークイベントやワークショップ(詳細:17, 18p)も開催し、市民へ浦安藝大の取り組みを紹介する機会となりました。

展示期間 | 10月20日(金)–11月5日(日) 11:00–17:00 •10月20日(金)のみ14:00–17:00 •風の子の展示期間は10月23日(月)–11月5日(日)
全展示会場の来場者数(延べ) | 7440人 インフォメーションセンター[於:新浦安駅]の訪問者数(延べ) | 3381人



- 〈トークイベント〉
- 10月21日(土) 13:30–16:00 「地域の課題×アート!？」
会場 | 市民プラザWave101
登壇者 | 日比野克彦、榎村美実、榎村研究室、蓮溪芳仁、西尾美也、林央子、安齋詩歩子、渡辺龍彦
- 10月22日(日) 10:30–12:30 「市民×アート!？」
会場 | 美浜公民館
登壇者 | 五十嵐靖晃、KITA(北澤潤、津田翔平)、「風の子」「浦浦(Ura Ura)」プロジェクトに関わった市民

「ポンプ場」から浦安の未来を創造してみよう

このプロジェクトに
関する記事を読む ▶▶▶



三方を海と川に囲まれ、かつて数々の水害に見舞われてきた浦安には、大雨等による水害を未然に防止するために排水機場ポンプ場が複数あります。東京藝術大学 特任講師の田中一平を講師に迎え、浦安の水害の歴史や、ポンプ場の役割を学び、ポンプ場をアートにより新しい姿に変容させることで、日常の風景を見返し、防災について考えるワークショップを開催しました。2022年11月20日、東京藝術大学の日比野克彦学長を講師に迎え、プレイベントのひとつとして実施された本ワークショップ。昨年度に続き、黒板塗料によって塗装されたポンプ場に、参加者はチョークで絵を描きます。チョークで描いた絵は、雨などで消えてしまいますが、変化していくことによって、新しいことを作り出したり、考え出したりするきっかけを生み出します。日常的に変化していくポンプ場の風景を見るたびに、水害や防災について思い起こす仕掛けを創造しました。

〈活動中に行ったワークショップ〉

浦安の水害の歴史やポンプ場の役割等について学び、ポンプ場をチョークで彩り、見慣れたポンプ場を新しい姿にするワークショップを行いました。

「『ポンプ場』から浦安の未来を創造してみよう」

2024年1月20日(土) 場所 | 中央公民館、新橋横ポンプ場

今年度は環境の観察によって天気などの気候への意識を高めるために、五感で身の回りの情報をキャッチし、音を視覚化するワークショップを実施しました。



〔プロフィール〕 田中一平

東京藝術大学美術学部先端芸術表現科卒業。2011年より同科教育研究助手・助教を経て、2018年より、東京藝術大学 Diversity on the Arts Project 担当。2023年より東京藝術大学 共創拠点推進機構 所属。Salon de Vert「調和する野性」(2023年)、恋する豚研究所「ART FOR CONVIVIALITY」(2021年)などのグループ展の企画・制作。金属などを用いた作品制作を行っている。

関わった担当課・施設

道路整備課、各公民館



ドキュメンタリー映像作品上映会 「現像される街、お店」

このプロジェクトに
関する記事を読む



東京藝術大学Diversity on the Arts Project(DOOR)の「ドキュメンタリー映像演習」を受講する藝大生と社会人が、浦安の“あきない”をテーマに、市内の個人商店をグループで取材し、ドキュメンタリー映像を制作しました。完成した映像作品は、市民プラザWave101にて、制作者、取材先、講師によるトーク付き上映会を行うとともに、取材先近くの市内の公民館でも上映を行いました。

「トーク付き上映会」

2024年2月10日(土) 場所 | 市民プラザWave101

作品の上映の後、出演者、制作者、鑑賞者が「浦安」に対する発見や気づき、今後の日常の変化について語り合いました。



「まちなか上映」

2024年2月14日(水)ー2月18日(日)

場所 | 高洲公民館、中央公民館、富岡公民館

取材先の近隣の公民館でループ上映を行うことで、公民館を利用する方々に映像を見ていただく機会になりました。



《住宅街の小料理屋 ～萌寿の女将 江森さん～》

取材先 | 小味庵・萌寿 16分

浦安の住宅街にぼつんと灯る看板。静かな住宅街に今日もなじみや通りすがりの客が集う。女将の江森さんは、東日本大震災後にこの店を始めた。店内には、全国の酒蔵や試飲会に足を運んで求めた美酒の数々や、酒に合う料理が並ぶ。女将に、日本酒への思いや、なぜこの店を始めたのかについて語ってもらい、お客さんとの和やかなやり取りの中で分かる人柄も併せて探ってみた。

出演 | 江森由美子、小味庵・萌寿をご利用されているお客さま

声の出演 | 中村美結

撮影協力 | 小味庵・萌寿(入船4丁目22-3)

《つながりのカタチ》

取材先 | でんきのエルク 19分

2023年10月上旬、浦安市で2代39年にわたり「街のでんき屋さん」を続けているでんきのエルクを訪れた。「街のでんき屋さん」とは一体何か、街の中でどのような役割を果たしているのか、この映像を通じて考えていく。そして彼らはどのような思いを持ち、どのような仕事を行っているのか。日頃、街のでんき屋さんを利用しない私たちには、わかりそうで、でもやっぱり、すんなりとは表しづらいこと、これをテーマに据えて制作した。

出演 | 吉田達也、吉田淳子、エルクをご利用されているお客さま、エルク関係者のみなさん

撮影協力 | 株式会社エルク(入船4丁目1-21)

《白いエプロン》

取材先 | 白いエプロン 21分

埋立でできたばかりの住宅地“高洲地区”で一人の主婦がはじめた宅配弁当「白いエプロン」。地域に家庭の味を届けたいと早朝から手間をかけたお弁当づくりをしている。配達先は、車両工場、市役所、医院、事業所、そして各ご家庭と様々。一個から配達する弁当はご高齢で独居の方々にも喜ばれている。本作品は、普段なかなか覗けない家族とスタッフが切り盛りする「白いエプロン」の裏側にスポットを当てたものとなっている。

出演 | 相馬薫、相馬公忠、相馬克年、相馬里江、仲波とく子、池田佑佳、安田カティウスカ、横山ちひろ、岩村由乃、本川恵子、

高橋英之(特定非営利活動法人LEED理事長)、生活介護施設「スマイル」利用者のみなさん

撮影協力 | 白いエプロン(高洲3丁目9-2)、遠藤孝一(ヘアサロンスカイ)、白いエプロン宅配弁当愛好者のみなさん

《あきないふたり》

取材先 | 富岡 美好 15分

浦安市富岡に、老舗和菓子屋「富岡 美好」はある。創業から40年以上、地元の人達に愛されながら、夫婦二人三脚で毎日手づくりの和菓子を提供してきた。和菓子には店主の細やかな工夫が施されており、手に取れば目にも舌にも甘美な日本の四季を愉しむことができる。なぜ「富岡 美好」の和菓子はここまで長く愛され続けているのか。夫婦ふたりのあきないのかたちを取材した。

出演 | 中島敬三、中島ひとみ、美好をご利用されているお客さま

撮影協力 | 富岡 美好(富岡4丁目8-1)

《堀越さんと飯田さん》

取材先 | 中村機材 14分

日本を代表する鉄鋼団地である浦安鉄鋼団地で溶断を専門とする会社、中村機材を取材した。話を伺う中で、新人の若手職人と彼を教えるベテラン職人に会った。工場では寡黙な職人にみえる彼らに対して、数ヶ月に渡る取材を重ねているうちに、素顔や関係性の変化が浮かび上がってきた…。技術を継承していくふたりの職人の物語。

出演 | 堀越英典、飯田裕介、田口正和、中村武史、中村機材のみなさん

撮影協力 | 中村機材(鉄鋼通り1丁目4-9)

《豊田たばこ店》

取材先 | 豊田たばこ店 28分

豊田やすさん、大正12年に生まれて浦安で一世紀。戦中戦後を生き抜き、昭和46年に猫実で娘の清子さんと商売を始めた。無我夢中の商いは時流に乗るが、まちの変化とともに移ろう。平成から続く長い陰りに、令和のコロナ禍が追い打ちをかける。創業当時を回想して描いた街の地図、公園で出逢った家族が辿り、想い出が交錯する。時折の散歩で隣人と交わる日常。時代に背を向けたようなお店に、新町から清子さんが通う日々が続く。

出演 | 豊田やす、豊田清子、井上司、井上一代、井上円、井上周

撮影協力 | 豊田たばこ店(猫実2丁目23-15)

※作品解説テキストは各制作グループによるもの

【プロフィール】 東京藝術大学DOOR (Diversity on the Arts Project)

東京藝術大学が開講する、社会人と藝大生と一緒に学び、「アート×福祉」をテーマに「多様な人々が共生できる社会」を支える人材を育成するプログラム。

ドキュメンタリー映像演習

東京藝術大学DOORが開講する授業のひとつで、あるテーマにそってグループで映像を制作し、上映会を行うことで他者と共有していく授業。技法を学ぶだけでなく、制作プロセスを介すことで、映像のリテラシーや多様な人々との関わり方をとらえることを目指している。

森内康博

1985年生まれ。映像作家、映画監督、株式会社らくだスタジオ代表。ドキュメンタリー映像演習講師。らくだスタジオプロデュースによるドキュメンタリー映画の制作や、CM・PV・アートプロジェクトの記録映像、また大学研究機関との映像アーカイブに携わっている。

関わった人・会社など

小味庵・萌寿、白いエプロン、でんきのエルク、富岡 美好、豊田たばこ店、中村機材、浦安鉄鋼団地共同組合

関わった担当課・施設

郷土博物館、高洲公民館、中央公民館、富岡公民館



令和5年度 浦安アートプロジェクト「浦安藝大」プログラム実施報告



日時 プログラム アーティスト/講師 展覧会・ワークショップ・レクチャーなど 参加者/来場者数(市内、市外)	9月 9月2日 潜在課題研究/実践プログラム 五十嵐靖晃 「風の子をつくろう」 22人(市内22人)	10月19日 顕在課題研究/実践プログラム「水害と防災」 樫村美実+樫村研究室 「ヤネをうかそう」 11人(市内11人)
8月 8月7日 潜在課題研究/実践プログラム 五十嵐靖晃 「風の子をつくろう」 26人(市内26人)	9月3日 潜在課題研究/実践プログラム 五十嵐靖晃 「風の子をつくろう」 43人(市内43人)	10月20日-11月5日 展覧会 樫村美実+樫村研究室、西尾美也+L PACK、 五十嵐靖晃、KITA、マックス・ゴメス・カンレ 「まちなか展示」 10,821人
8月11日 潜在課題研究/実践プログラム KITA 「わたしたち(KITA)の実験室」 24人(市内24人)	9月13日 潜在課題研究/実践プログラム 五十嵐靖晃 「風の子をつくろう」 東小学校(2年生)104人(市内104人)	10月20日 顕在課題研究/実践プログラム「高齢化と孤立」 西尾美也+林央子、BIOTOPE 「あそびを装う」 10人(市内3人、市外7人)・まちなか展示期間
8月22日 潜在課題研究/実践プログラム 五十嵐靖晃 「風の子をつくろう」 19人(市内19人)	10月 10月1日 顕在課題研究/実践プログラム「水害と防災」 樫村美実+樫村研究室 「ヤネをさがそう」 26人(市内26人)	10月21日 潜在課題研究/実践プログラム KITA 「UraUra実験室-浦をあそぼう-」 23人(市内21人、市外2人)・まちなか展示期間
8月23日 潜在課題研究/実践プログラム 五十嵐靖晃 「風の子をつくろう」 20人(市内20人)	10月11日 潜在課題研究/実践プログラム 五十嵐靖晃 「風の子をつくろう」 高洲北小学校(1年生)90人(市内90人)	10月21日 トークイベント 日比野克彦、樫村美実、樫村研究室、蓮溪芳仁、 西尾美也、林央子、安齋詩歩子、渡辺龍彦 「地域の課題×アート?」 41人(市内23人、市外18人)・まちなか展示期間
8月26日 顕在課題研究/実践プログラム「高齢化と孤立」 西尾美也、林央子、安齋詩歩子 「拡張するファッション演習」 47人(市内9人、市外38人)	10月11日 潜在課題研究/実践プログラム 五十嵐靖晃 「風の子をつくろう」 美浜北小学校地区児童育成クラブ14人 (市内14人)	10月22日 潜在課題研究/実践プログラム 五十嵐靖晃 「風の子の日」 60人(市内60人)・まちなか展示期間
8月29日 潜在課題研究/実践プログラム 五十嵐靖晃 「風の子をつくろう」 明海南小学校地区児童育成クラブ64人 (市内64人)	10月14日 海外交流プログラム マックス・ゴメス・カンレ、平田彩 「素材/材料のこと」 15人(市内15人)	10月22日 トークイベント 五十嵐靖晃、KITA(北澤潤、津田翔平)、 「風の子」「浦浦(Ura Ura)」プロジェクトに関 わった市民 「市民×アート?」 9人(市内5人、市外4人)・まちなか展示期間

10月22日
海外交流プログラム
マックス・ゴメス・カンレ、平田彩
「作るプロセスのこと」
13人(市内11人、市外2人)・まちなか展示期間

10月27日
顕在課題研究/実践プログラム「高齢化と孤立」
西尾美也、林央子、安齋詩歩子ほか
「循環する社会へ」
29人(市内16人、市外13人)・まちなか展示期間

10月28日
まちなか展示企画
東京藝大スタッフ
「バस्तゥアー」
11人(市内7人、市外4人)・まちなか展示期間

11月

11月3日
顕在課題研究/実践プログラム「高齢化と孤立」
西尾美也+林央子、居相大輝
「魂のもうひとつの皮膚」
25人(市内14人、市外11人)・まちなか展示期間

11月5日
顕在課題研究/実践プログラム「水害と防災」
榎村美実+榎村研究室、斉田季実治
「ヤネと空のあいだ」
36人(市内31人、市外5人)・まちなか展示期間

11月21日(アルゼンチン)
海外交流プログラム
マックス・ゴメス・カンレ、平田彩
「緑茶とトルタ・フリッタ」
27人(市外27人)

11月22日(アルゼンチン)
海外交流プログラム
マックス・ゴメス・カンレ、平田彩
「マテ茶とぼったら」
27人(市外27人)

11月23日(アルゼンチン)
海外交流プログラム
マックス・ゴメス・カンレ、平田彩
「ピンチョス・アサードスと串焼き」
27人(市外27人)

11月24日(アルゼンチン)
海外交流プログラム
平田彩
「ぼったらどら焼き」
30人(市外30人)

11月30日(アルゼンチン)
海外交流プログラム
日比野克彦、マックス・ゴメス・カンレ、平田彩
「チョリパンとおにぎり」
27人(市外27人)

12月

12月2日-12月31日(アルゼンチン)
海外交流プログラム 展覧会
マックス・ゴメス・カンレ、平田彩
「BIENALSUR+TURN 2023」
2,455人

1月

1月20日
顕在課題研究/実践プログラム「水害と防災」
田中一平
「『ポンプ場』から浦安の未来を創造してみよう」
15人(市内15人)

1月27日
海外交流プログラム
平田彩、畑まりあ
「アルゼンチン×浦安」
16人(市内16人)

2月

2月10日
発見プロジェクト
森内康博、東京藝術大学DOOR受講生、東京藝術大学学生
ドキュメンタリー映像作品上映会「現像される街、お店」トーク付き上映会
第1部 57人(市内16人、市外41人)
第2部 60人(市内13人、市外47人)

2月14日-18日
発見プロジェクト
森内康博、東京藝術大学DOOR受講生、東京藝術大学学生
ドキュメンタリー映像作品上映会「現像される街、お店」まちなか上映
180人

2月17日
海外交流プログラム
日比野克彦、畑まりあ、平田彩
「アルゼンチンの食文化を体験し、浦安の食文化を創造しよう」
報告会34人(市内29人、市外5人)
ワークショップ28人(市内23人、市外5人)

参加者/来場者数
合計 14,586人

浦安藝大事務局 **畑まりあ** [東京藝術大学特任助教・浦安藝大事務局長]
布下 翔碁 [東京藝術大学特任助手・浦安藝大プロジェクトコーディネーター]
林 宏樹 [東京藝術大学特任助手・浦安藝大プロジェクトコーディネーター]
ミヤタ ユキ [ROKUROKURIN合同会社代表、浦安藝大プロジェクトマネージャー]

全体デザイン **MINGLE Design Office**

編集・ライティング **志田 実恵** [ライター]
(五十音順) **武田 萌花** [編集アシスタント]
李 生美 [ライター]
渡辺 龍彦 [編集、浦安藝大編集ディレクター]

撮影 **横山 渚**

浦安市 **生涯学習課**

浦安藝大2023ドキュメント

発行 | 浦安市、東京藝術大学

発行日 | 2024年3月25日

デザイン | 川村格夫

編集 | 渡辺龍彦